総合的な探究の時間『推し探究』で涌高生が町のみなさんにインタビューしました

涌高生の

2026
SPRING
vol. 1

涌谷町人物図鑑



涌谷高校人物図鑑

1

須田　亜津美さん

涌谷町健康課　健康づくり班

2

鈴木　宏美さん

涌谷町社会福祉協議会　ゆうらいふデイサービス

3

前沢　政次さん

涌谷町町民医療福祉センター　医師

4

鈴木　香織さん

SUZUKOO WAKUYA DAY SPA SCHOOL

5

石川　幸秀さん

篦峯寺西之坊住職

6

髙橋　洋江さん

生田流箏曲　箏・三絃教室

7

髙橋　修さん

柏谷写真館

8

手嶋　真也さん

涌谷園芸ファーム

9

菊田　佳奈さん

涌谷町地域おこし協力隊

10

金野　暁さん

涌谷町企画財政課　主任主査

11

内藤　康子さん

涌谷町地域おこし協力隊

12

鈴木　由美さん

まちかど保健室



涌谷町健康課
健康づくり班
須田　亜津美さん

須田さんは歯のスペシャリスト

涌谷町医療福祉センターで働いている、須田亜津美さんについて紹介します。

須田さんは歯科衛生士という仕事をしていて、主に小さい子の歯から大人の歯までの歯を見ています。性格は厳しいと言われていると言っていましたが、フレンドリーでとても気さくな方で、全く厳しそうには見えなかったです。中学生の頃は歯科衛生士ではなく保育士を目指していましたが親戚の方々から歯科衛生士を勧められ歯科衛生士になりました。高校時代はバスケ部に所属していました。



こんなことを聞いてきたよ

須田さんには仕事内容や仕事に対しての思い、須田さん本人についてもいろんなことを聞きました。須田さんは主に、公衆衛生と病気についての仕事をしています。須田さんは高校時代バスケ部に所属していて、高校生半ばくらいから本格的に歯科衛生士についての勉強を開始しました。卒業した後は覚えることがたくさんあったので、とても大変だったと言っていました。元々は、保育士になりたいと思い、保育士になるための勉強もしていましたが、親戚や周りの人から歯科衛生士の仕事を勧められるようになりこの仕事に決めたそうです。須田さんは今の仕事に対してとてもやりがいを持っていて、幼稚園、小学校、中学校とたくさんの人と関わっていく中で喜んでもらいたい一心で業務をこなしていてすごいと思いました。

01



そして、今はバランス良く業務を行うことが目標です。目標に向けて自己分析をし、できないところはできるようになるまで全力でやることが大切だと話してくれました。須田さんからも、私たちに、いい町づくりをするにはどうすれば良いと思うかを質問されました。常に町がどうなったら良くなるかを考えていることが伝わりました。

たくさんの事を知ったよ

今回インタビューして分かったことは自己分析の大切さです。自己分析をすることによって自分ができなかった所や今どこがダメなのかがわかるのでとても大事だと思いました。また、信頼を得て患者さんとの絆を深めることにより良いコミュニケーションが生まれるのだと思いました。

普段歯科衛生士の方はどのような事をしているか分かりませんでしたが、話を聞くことにより、どんな仕事で、何をしているのかを知ることができました。技術面でも覚えることが多くて、たくさん勉強したことが伝わってきました。

また、話を聞くにつれて子供と大人の考え方の違いに気づきました。自己分析もその一つで私たちは自分の事をあまり分析することは今はまだありませんが、大人はしっかりと自分の事を分析していてすごいと思いました。歯科衛生士の事だけでなく、健康課のことも一緒に考えていて素晴らしいと思いました。

これからは自己分析を積極的に行い自分をしっかりと理解して行動したいと思いました。



涌谷町町民医療福祉センター

〒987-0121
遠田郡涌谷町字中江278

Tel. 0229-25-7973



ぬくもりで繋ぐ、毎日のケア

涌谷町社会福祉協議会の鈴木宏美さんにお話を聞いてきました。

宏美さんは涌谷町高齢者福祉複合施設ゆうらいふデイサービスの介護福祉士として統括主任、副管理者、生活相談員の役割を担っています。デイサービスでは、入浴介助や食事の提供、レクリエーションなどを業務内容として、自宅での生活を少しでも長く続けていけるようにサポートしているそうです。他にも高齢者の方々と、地域に関わり、社会的孤立を解消し、認知症予防にも尽力しています。

最近の趣味は日帰りで温泉に行くことだそうです。他には焼肉が好物のようでした。そんな宏美さんについて詳しく紹介していきます。



専門知識と優しさで安心を届ける

まず、宏美さんの強みを伺いました。宏美さんと同じ職場で働いている職員さんによるとリーダー気質があり明るく相談しやすい人、誰よりも利用者さんやそのご家族を大切にしていて地域のことをとても考えてくれる人だそうです。

また、宏美さんにもご自身の強みを伺ったところ、責任感を持って仕事をこなせることとおっしゃっていました。宏美さんは利用者さん一人一人の体調や性格に合わせて接し方を変えることや、利用者さんの生活や気持ちに寄り添うことを大切にしていました。これは同じ介護でもその人によって必要な支援は異なることをよく理解し、よく観察し、声掛けをしているという宏美さんの工夫によるものだと感じました。

仕事は決して楽なことばかりではなく、体力的に大変な日や思うようにいかず悩むこともありますが、利用者さんから「ありがとう」と言われたり、笑顔を見せてくれたりした時に、この仕事をしていてよかったと感じるそうです。

02



あの時の優しさを私が

次に、介護福祉士を目指したきっかけについて伺いました。

「地域のためになる仕事をしたいという気持ちもありましたが、大きかったのは介護を受けていた祖父母の介護士さんを見てありがたいという気持ちから自分もしてみたい気持ちに変わっていったこと」がきっかけだそうです。実際介護福祉士になってみて、初めは覚えることも沢山あり、自分の持っている知識が実践できず利用者さんに冷たくされたりと大変なことも多かったとおっしゃっていました。ですが、介護福祉士は人と人との繋がりを大切にする仕事なので、ただ作業をこなすのではなく、少しでも元気な日々が続くように、相手の立場に立って考えサポートすることがこの仕事の楽しさであり、やりがいにもなっているそうです。社会にとって介護福祉士とはあまり目立つ職業ではなくても必要不可欠な仕事です。宏美さんは責任感や思いやりを大切にしてこの仕事に向き合っていると思いました。

今回のインタビューを通して、介護の仕事へのイメージが変わりました。介護を受ける方は体が不自由な方が多い印象でしたが、全くそんなことはなく、ある程度のことは自分でできる方が多かったです。もちろん、寝たきりの方もいましたが好きなことをしていたり、職員の方々とお話をしていたりと皆さんとても元気な印象でした。

最初は、お年寄りの方々と接する仕事なのですごく大変だろうなと思っていましたが職員の皆さんもとても楽しそうにしていて、利用者さんも楽しめる工夫が施設中に詰め込まれていました。宏美さんも、とても接しやすく人を引き寄せる力がありたくさんの魅力がある方でした。



涌谷町社会福祉協議会

〒987-0121

遠田郡涌谷町涌谷新下町浦192

Tel. 0229-43-6661



涌谷町町民医療福祉センター
医師（センター長）
前沢　政次さん

前沢政次さんについて

前沢政次さんは、涌谷町町民医療センターでセンター長を務めています。話し方が穏やかで優しく、高校生の私たちにも分かりやすく仕事のことを説明してくださり、話し方の中に人柄の良さが滲み出ていました。前沢さんは茨城県出身です。干し芋とメロンが有名だと話してくれました。

医者になったきっかけは、高校二年生の時、小菅清という友人からの一言でした。

仕事でのやりがいを感じる瞬間は、感謝の言葉をもらう瞬間とのことでした。時には辛いこともある仕事ですが、その瞬間があることで、日々前向きに仕事にも取り組めているそうです。今回はそんな前沢さんについて紹介していきます。



大切なことを丁寧に

医療の仕事は大変な反面、大きな責任が伴う職業だと感じていたため、どのような時にやりがいを感じるのかを伺いました。前沢さんは、人に感謝された時にやりがいを感じると話してくださいました。言葉で「ありがとう」と言ってもらった時だけでなく、言葉を出せない患者さんが手を握ってくれたり手を振ったりしてくれることも、やりがいに繋がるそうです。これまで、感謝は言葉で伝えるものだと考えていました。しかし、言葉を使わなくても相手を思う気持ちは確かに伝わるのだと知り、人との関わり方についての考えが変わりました。前沢さんに仕事のやりがいについてお話を伺い、医療現場で働くことの意味を改めて考える機会になりました。

03



次に仕事をしている上で気をつけている事を聞きました。仕事をしている上で気をつけていることは、言葉で相手を傷つけないことです。自分としては思いやりのつもりで言った言葉でも、相手に違う意味で受け取られてしまう事もあるそうです。そのため、会話している時は特に言葉に気を付けているそうです。

この仕事を始めたきっかけは、「友人」と「一冊の本」です。。「学生時代、友人に『おまえ、医者になれ』と言われたことと、シュヴァイツァーという方が書いた本を読んで、『医者は人生に影響を与える職だ』と気付いた。これらが医者を目指すきっかけになった。」と話しておりました。前沢さんのお話から、進路や夢は、思いがけない出会いや言葉から生まれることがあることと、周りの人からの言葉に耳を傾けることで、自分だけでは気付けなかった強みに気付けるという事を学びました。私は、周囲の人から何気なくかけられた言葉を深く考えずに流してしまうことがあるのですが、前沢さんのお話を聞いてそれが将来を決める大切なヒントになるということを学びました。

覚悟を、形に

前沢さんのことや福祉センターのことについてたくさんのことを聞くことができました。なんとなくしか知らなかった医師の仕事についても詳しく知ることができました。仕事内容を聞いて医者という仕事は、自分が思っていたよりも数倍大変で責任のある仕事だということも理解することができました。

特に前沢さんのこれまでの経験や苦労したことなどはとてもためになりました。私はまだ将来のことなどはあまり考えられていないですが、前沢さんの話を聞いて感じたことを大切にして、これからの学校生活や将来のことについて深く考えていきたいと思いました。



涌谷町町民医療福祉センター
〒987-0121
遠田郡涌谷町涌谷字中江南278

Tel. 0229-43-5111



人生の転機

涌谷町のSUZUKOO WAKUYA DAY SPA & SCHOOLというお店を経営している鈴木香織さんについて紹介します。

香織さんは涌谷高校を卒業してから、料理の専門学校に進み料理の仕事をしていましたが、姉に誘われオイルマッサージ師になりました。香織さんのオイルマッサージは、口ミロミとスウェディッシュを融合させたマッサージになっています。オイルマッサージ師は人を幸せにできる仕事で、香織さんはお客さんのキラキラとした笑顔のためにオイルマッサージ師として活躍されている方です。その活躍の通り香織さんの第一印象は、明るく元気な方です。



世界に三店舗!?

お仕事を始められた理由は、香織さんのお姉さんが元々お店を経営されていて、誘われたのがきっかけです。。香織さんがされているオイルマッサージは、「口ミロミ」というハワイから古く伝わる伝統的なヒーリングマッサージと、「スウェディッシュ」というスウェーデン発祥の伝統的なオイルマッサージを組み合わせた世界にたった一つのオイルマッサージをされています。この口ミロミはハワイで昔、医療の一部として使われていた技術で、スウェディッシュは血行促進や疲労回復など、深いリラクゼーション効果があります。

次に質問させていただいたことについて紹介します。

一つ目は、仕事をする上で大切にされていることです。

鈴木さんはお客様とのコミュニケーションを大切にされてるということでした。

04



お客様の体の状態を話の中で知ることができるとおっしゃっていました。

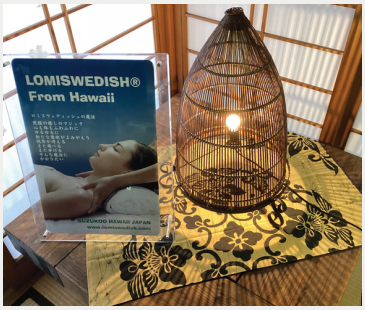
二つ目は、仕事で大変なことです。オイルマッサージの技術は１４２工程あるので、その技術を覚えるのが大変だったとおっしゃっていました。それを聞いた時にびっくりしました。一人一人のお客様にあった施術をしないといけないと思うので、凄いなとおもいました。

三つ目は、仕事のやりがいと楽しいことについてです。やりがいは、お客様の笑顔を見ることです。楽しいことは、自営業ということもあり、自由にできることだそうです。人間関係のストレスも少なく毎日楽しくお仕事をされているそうです。

四つ目は、挑戦してみたいことについてです。香織さんは、オイルマッサージを一人でも多くの人に知ってほしいという思いがあり、発信を頑張りたいと言っていました。

挑戦の心

今回のインタビューを通じて、仕事をする上で大変なことや、学生のうちにしておいた方がいいことなどを学びました。仕事のことだけでなくいろんなことを学ぶことができました。オイルマッサージの仕事をする前は料理の仕事をしていた鈴木さんが、姉に誘われて別の仕事をすることになったという話を聞いて、初めてのことに挑戦する精神がすごいと思いました。これから自分もバイトや仕事に関わることがありますが、鈴木香織さんから聞いたことを生かしていろんなことに挑戦していきたいと思います。



SUZUKOO WAKUYA
DAY SPA SCHOOL

〒987-0171
遠田郡涌谷町上郡上郡沢21-8

Tel. 090-1494-5222







お寺で働いている人はどういう人なの？

インタビューした石川幸秀さんについて紹介していきます。石川幸秀さんは西暦７７０年に建てられた歴史のある崑峯寺西之坊で、住職をしていらっしゃいます。石川幸秀さんは崑峯寺西之坊の住職を始めて三十年目になります。学生時代は教員になりたいという夢をもっており、実際に岩出山高校で一年間教師として仕事をしていました。しかし、お寺との両立が難しく、住職に専念なさったそうです。「日々手を抜かない」ということを心掛けてお寺を守り続けています。



「観るだけじゃない、感じるお寺。」

石川さんは宮城県遠田郡涌谷町の【崑峯寺西之坊】で今年で三十年という長い期間にわたって僧侶をしています。私たちは崑峯寺、石川さんにインタビューをさせてもらいました。私たちがインタビューをしている際に石川さんが言っていた言葉で最も素晴らしいと感じたものがありました。『基本の礼儀を大切にする。』という言葉です。基本というのは、あいさつをすることや時間を守ること、言葉遣い、周りへの配慮などのことです。一見当たり前のように思えますがこれはとても難しいことです。何事をするのにも、礼儀や基本はつきものです。基本や礼儀という根本がしっかりしていれば、社会に出るにしても、学校の中であったとしても人間関係でも上手くいくことが多くなったり、物事でも失敗が少なくなったりすると思います。私たちはこれらのことを考え、石川さんからの話では基本や礼儀は学校の中だけでなく何事にも大切という新たな気づきをいただきました。そしてお寺での様々な知識も教えてもらいました。

05



こんな間近に１２００年もの歴史があった

崑峯寺の歴史についても教えていただきました。８０４年に坂上田村麻呂が東に勢力を伸ばし、のの岳にいる蝦夷と戦い、坂上田村麻呂が勝利しました。その時の戦争で亡くなった自分の部下と蝦夷のお墓を立て、その上に崑峯寺が建てられています。その土が盛り上がっているのが特徴的でした。崑峯寺には大きな歴史があると教えていただきました。更に崑峯寺の門のところには微笑み仁王像と言われている仁王像がいます。その像は人間が持っている「魔」と言われる悪い心を払ってくれると言われており、微笑んでいるように見える人は魔がなく、綺麗な心の持ち主だと言われているそうです。また、崑峯寺には十一面観音世菩薩という仏様がいて、特別に近くで見させてもらいました。その十一面観音世菩薩には顔が十一個あり、喜怒哀楽が備わっていて、お願いをしに来た人々の願いに合わせた表情をするそうです。そのほかにもお寺の中に菅笠が何個か飾ってありました。それは修行を終えた証としてあるらしいです。

気持ちのいいお寺に

私たちは石川さんに何が一番大変かを質問してみました。石川さんは『お寺の手入れが大変』とおっしゃっていました。石川さんは住職としてお寺に来られる人々が気持ちいいと思える場所を常に作っておきたいと常日頃思っています。その言葉には、住職としての責任感を強く感じ、周りへの思いやりがある魅力的な人だと感じました。また、崑峯寺は様々な企業や地域の人々に支えられているとも話しており、ました。石川さん自身も地域の安全と平和を強く願っていらっしゃいます。言葉の節々から優しさが滲み出ていました。

最後に、崑缶観音は、松島の富山観音、石巻の牧山観音と共に奥州三銀音の一つとして有名で、古来よりこの三観音を三年間続けて参拝すると必ず願い事が叶えられるとあって参拝客が絶えないそうです。ぜひ皆さんも崑峯寺に足をお運んでみてください。

これから活かしたいこと

私たちの班は今回のフィールドワークで石川さんのお話から崑峰寺の歴史や住職の仕事のことについて教えていただきました。崑峰寺が宮城県指定有形文化財だったことや仏像のことについて学ぶことができました。そして私たちが一番印象に残ったお話は「手を抜かないこと」「礼儀や基本の大切さ」「日々の積み重ねの意識」についてのお話でした。石川さんは修行や掃除など何事にも手を抜かずに取り組むことが大事とおっしゃっていました。私も何事にも手を抜かずに頑張っていきたいです。また、あいさつなどの基本的な礼儀をしっかりすることの大切さを学びました。そして「日々の積み重ねの意識」の話からは、普段から行っていることを継続することが大切だということを学びました。

今回の学びを今後に生かしていきたいです。



筧岳山崑峯寺西之坊
〒987-0285
遠田郡涌谷町筧岳字神楽岡1

Tel. 0229-45-2251（崑峯寺）
0229-45-2218（西之坊）



生田流箏曲　箏・三絃教室

髙橋　洋江さん

洋江さんとは　どんな人？

高橋洋江さんについて紹介します。高橋さんは生田流 琴・三味線教室で琴・三味線の先生をしています。お琴は子供からお年寄りまで、幅広い年代の方に、楽しまれています。小学三年生の頃からお琴を習っていて、十年ほどで先生の資格を取りました。お琴は年齢層が広く色々な方に愛されている楽器です。そのため、いろんな方とお話ができ、たくさん学べることがあるそうです。髙橋さんはいろんな人たちとお話をするのが得意です。高橋さんは実は涌谷高校で音楽選択の生徒に、授業で琴と三味線を教えに来ていました。当時の学生は、上達が早く、すぐにみんなで合奏を楽しんでくれたそうです。

私たちもお琴を弾く体験をさせていただきましたが、優しくわかりやすく教えていただきました。

琴を知ろう

私たちは、まず、琴についてお聞きしました。ひと口に琴と言っても、山田流と生田流という二つの流派があり、それぞれ座り方と琴爪が違います。生田流の爪が四角で山田流は先端が山形で丸みを帯びています。生田流は琴に対して左斜め四十五度に座るのに対し、山田流は琴に対して正面を向いて座ります。資格を取るためにはお琴、三味線の両方が弾けなくてはならないそうです。琴を習う時に、三味線も同時に習うそうです。三味線は、琴とは違って難しく、糸巻きで音を調節します。都会では一万円くらいする授業料が一ヶ月四回で六千円。二回で三千円、一レッスン三十分で琴を買えなくても琴を貸したりしています。

その他にも、高橋さんは福祉施設に行ってボランティア活動もしています。年が違う方と接する機会が少なくなってきている時代だからこそ、ボランティアに参加してほしいとのことです。

06



特に涌谷高校は部活動に所属している生徒が少ないため、先輩や歳が離れた人と関わる機会が少ないと思います。歳が違う人と話しなれていないと、社会にでたときに緊張してうまくコミュニケーションが取れなくなってしまいます。そうならないために是非、友達とボランティアに参加してみましょう！

高橋さんの生きがいは、子供の成長を見ることや、技術の成長、仲間が出来ていくことなどだそうです。高橋さんは挫折した時でも、粘り強く、物事を続けるようにしています。高橋さんの強みは、いろんな人たちとお話しできることや、琴の演奏で培った耳の良さ、反射神経の良さです。実際に私たちも琴を演奏させてもらいましたが、少しの音の違いを聞き分けていてビックリしました。

振り返ろう！

今回のインタビューで、高橋さんのお仕事や、お琴・三味線について話を聞き、伝統楽器の魅力を知ることができました。お琴は音の調節の仕方や流派があり、三味線はとても壊れやすい楽器だと分かりました。また、仕事で大切なのは続けることや、うまくいかない時は休みながらもう一度挑戦することだと学びました。人の成長を見られることが、この仕事のやりがいだと思いました。

高橋さんの優しい心が地域の方達の交流を招くんだなと思いました。皆さんも、是非お琴や三味線を体験してみてはいかがですか！

そして先生方！学校側からも是非声をかけましょう！



生田流箏曲　箏・三絃教室

〒987-0112

遠田郡桑木荒141-3

Tel. 090-6458-5717



楽しい写真を撮り続ける

今回私たちは、遠田郡涌谷町でカメラマンとして働いている髙橋修さんにインタビューをしました。髙橋修さんは涌谷町で「柏谷写真館」を拠点にカメラマンとして活動しています。修さんは、まず基礎を学ぶために写真の専門学校に通い、その後、カメラマンを始めました。始めた頃は、魅力に気づけなかったそうです。また、技術不足を実感し、それを補うために様々な工夫を凝らすようになったそうです。写真館の上にはスタジオがあり、お客様の、様々な希望にそって、手元に残る大切な思い出を日々撮って残しています。今回は、お客様を第一に考えている髙橋修さんについて紹介していきます。

お客様を第一に考える

今回私達は、髙橋さんに、仕事についてインタビューしました。合計で約十二個の質問をしました。まず、前提としてカメラマンの仕事を「必要とされる限り続ける」とおっしゃっている髙橋さんですが、元々はカメラマンの道に歩もうとはしていませんでした。元々は、幼稚園の先生になりたかったとおっしゃっていました。しかし、当時の時代では、男性がなれる仕事ではなかったため、この夢を諦め、カメラマンの道に進んだそうです。



07



現在、カメラマンの仕事をしていて、「どんなところが好きでこの仕事を続けているのか？」という問いに髙橋さんは「お客様に喜んでもらえる。それが嬉しい。宝物や思い出になるから好き。続けることは大変だけれど、必要とされるから。」とおっしゃっていました。他に「今までで一番やりがいを感じた仕事は何ですか？」という問いに「難しい写真を撮った時。真っ暗な中、集合写真を撮ったことが、印象に残っている。」とおっしゃっていました。髙橋さんは、「頼まれたことはできるだけする。」と、お客様の気持ちを、一番に考えて行動する方なのだと思いました。加えて、髙橋さんは、お客様が気持ちよく撮影を終えられることが何より大切で、そのためには、お客様自身に協力してもらうことが、大切なことだとおっしゃっていました。これからも写真を撮り続けていく髙橋さんに注目です。

私達の地域の写真館

今回私たちは髙橋修さんにインタビューをして、写真や人と繋がれることの素晴らしさを知る事ができました。まずカメラや写真について私達はあまり詳しくなく、スマホのカメラアプリしか触れてこなかったのですが実際にカメラや写真について仕事をしている人の話を聞いて本当に素晴らしいものだなと思いました。



柏谷写真館

〒987-0162

遠田郡涌谷町本町2番地2

Tel. 0229-42-2074

もちろんアプリにもアプリの良さがあると思いますが、やはりしっかりと形があってそれを人が使い写真を作る。それがいいところだなと感じました。

私たちも、髙橋修さんのように、まずは自分ができる範囲の事を全力でやって成長していきたいと思いました。



手嶋さんってどんな人？

手嶋さんは涌谷園芸ファームで農業を営んでいます。マイペースな性格で、優しく、ポジティブ思考を持っており、遊び心とチャレンジ精神を大切にしている方でした。柔らかいオーラを纏っていて、話しかけやすい方でもありました。

自分で育てたコーヒー豆で作ったコーヒーを朝に外で飲むことが日課で、アウトドアが好きな方です。今回はそんな手嶋さんについて紹介します。



まず手嶋さんに「なぜレモンを栽培しようと思ったのか」聞きました。キッカケはお客さんから「東北でレモンを作ってくれないか？」とお願いされたことでした。

レモン栽培を始めたころは８０本の木を買ってレモンが２０個しか栽培できませんでしたが、東北でもレモンが育つことはわかったので失敗の原因を探り、諦めずに何度も挑戦して今では２８０本の木にたくさんのレモンを実らせるまでになりました。

ここまで成長できたのは、失敗をそのままにせず、失敗から学んだからこそです。

涌谷園芸ファームで育てているもの

涌谷園芸ファームでは、レモンのほかにシクラメンとラベンダーを栽培しています。ラベンダーは寒さに強い「東北イングリッシュラベンダー（ほのか）」を育てています。手嶋さんのシクラメンは色がとても美しく一般的には１２月に咲き始めるところを、１０月に咲く、日本でもいち早い開花が特長で、人気を集めています。

08



黄金レモンってどんなレモン？

黄金レモンの名前は、昔、涌谷町で金が採れていたことが由来になっています。

黄金レモンは、一般的なレモンの約二倍糖度があり、ほかのレモンよりも甘みがあります。でも、ただ甘いだけではなく、さっぱりとした味わいで、とても食べやすいのが特徴です。甘さの理由は、レモンとオレンジを組み合わせて生まれた品種だからです。

また、育て方にもやさしい工夫があります。農薬を使わず、パパイヤ酵素が入った「エコナジュレ」という天然由来の農業用酵素資材を使って大切に育てられています。これは虫の関節を溶かす働きがあり、環境にも配慮した方法です。使っている土もラベンダーやシクラメンと同じ物を使っています。販売方法にもこだわりがあり、道の駅などでは販売せず、涌谷園芸ファームだけで販売しています。心を込めて育てた黄金レモンを、特別なかたちで届けたいという思いが込められています。

自分の強みにする

手嶋さんは人付き合いを特に大切にしており、探究活動の際にも、実際に感じることが出来ました。また、人付き合いを大切にし、お客さんと2、3年付き合っていくことでフランクな関係になり、冗談も言い合えるような関係になっていきます。お客さんとフランクな関係になるには、話しやすい環境を作ることです。話しやすい環境を作ることでお客さんの方からも話しかけてくれるからで　また、ポジティブに見方を変えて、自分の強みにすることも大切です。お客さんとの関係が深まっていくうちにいじられたりすることもありますが、いじられることすらも逆に自分の強みにしています。

高校生へメッセージ

最後に手嶋さんから私たち高校生にこんなメッセージを頂きました。

「『なぜ？』と思ったことを、そのままにしないでほしい。そして、自分が好きなことや得意なことで、自信を持って輝いてほしい。あれをやってみたい、これに挑戦したいという気持ちを大切にし、その夢を実現する方法を自分たちで考え、行動に移してください。」

今回のインタビューで、私たちは「継続することの大切さ」を学びました。失敗して終わりじゃなく、手嶋さんのようにじゃあどうするか対策を考えて色んなことに諦めずに取り組みたいと思います。



涌谷園芸ファーム

〒987-0145

遠田郡涌谷町字花勝山2号70-2

Tel.080-5559-4816



菊田さんってどんな方

菊田さんは好文館高校を卒業して事務の仕事についた後に地域おこし協力隊に入ったそうです。

お菓子作りがやりがいでカフェを作ることや手土産となるような商品開発をすることを目標に仕事してます。

仕事が休みの日は家でお菓子を作ったり猫と遊んだりして過ごしているそうです。

座右の銘はなんとかなる！

今回はそんな菊田さんについて紹介していきます。



菊田さんとお菓子作り

菊田さんが涌谷町にカフェを開こうとしている理由は大きく分けて2つあります。

1つ目は涌谷町に若者を取り入れて、涌谷町を盛り上げたいという思いです。

2つ目は涌谷町で収穫された食材を使って作ったスイーツなどを涌谷町民でない人にも食べてもらい涌谷町が盛り上がる原点になれば良いという考えです。

菊田さんはインスタグラムで日々活動の内容などを発信しています。SNSを使って活動していく上で若者や涌谷市民の人以外にも、情報を発信していくことは涌谷町の活性化に良い影響を与えていると思います。涌谷町の方々の人の良さについても話してくださいました。

この仕事のやりがいは自分で作ったお菓子やスイーツを食べてもらって食べた方から、美味しいと言ってもらうことです。仕事をしていて楽しいことを伺うとお菓子作りをすることで、特に焼き菓子を作ることが好きだそうです。そのほかにも地域の人たちと話をすることが楽しいそうです。

09



大好きなお菓子作りを始めたきっかけは小学生の時に、おばさんとクッキーを作ってそれが美味しかったことです。地域おこし協力隊の仕事に就いてからは自分の趣味のお菓子作りを売りにいろいろなイベントやお祭りで販売しているそうです。

次に仕事をする上で大切なこと聞いてみました。大切にしていることは、なんでも挑戦し、行動に移すことです。

仕事に就いてからの気持ちの変化を伺うと自分の趣味のお菓子作りが仕事になって、とても嬉しいと言っていました。現在の涌谷町の課題は少子高齢化で若い人が少ないこと、お店が少ないことです。その課題を解決するため、地域おこし協力隊として日々奮闘しています。

菊田さんの未来

今回のインタビューを通して菊田さんの仕事の中身や仕事への向き合い方、価値観などたくさんのことを知ることができました。

町のために働くことの素晴らしさや、やりがいを見つけることの大切さを学びました。やりがいを感じることで仕事を続けることができたり、自分から行動する勇気が湧いてくることが分かりました。とにかく、失敗を恐れないで挑戦をしてみることが大切だとと菊田さんの話から学ぶことができました。今後私たちは菊田さんのお話を聞き、学んだことを将来の仕事や学校生活で生かしていきたいと思います。



涌谷町役場　企画財政課

〒987-0114

遠田郡涌谷町字新町裏153-2

Tel. 090-6683-6427





涌谷町民の声を聞く公務員、金野さん

金野暁さんは涌谷町出身の公務員で、現在は涌谷町役場の企画財政課に勤めている、落ち着きのある方です。宮城大学卒業後、社会人になってからは仙台市にある広告会社に就職し、働いていました。企業の広告宣伝などを担当していたそうです。そんな中、東日本大震災が起こりました。東日本大震災で衰退した涌谷町を見て、活気のある町に戻したいと思い、三十歳で公務員試験を受験しました。その後は涌谷町役場に勤め始め、豊かな涌谷町に近づけるため、企画財政課の仕事、広報やイベントの準備の他、涌谷町民の人達との関わりを大切にしていきました。四十三歳の現在も涌谷町役場で涌谷町を豊かにするため、懸命に働いています。

涌谷町を支える一人として

金野さんが仕事で心がけているところは、住民目線で考えて仕事を進めることです。いろいろな人の意見を聞き、仕事に活かして、地域活性化に努めています。金野さんは主にふるさと納税に関することや移住及び定住の促進、地域間交流、広報の発行とホームページの管理、地域おこし協力隊に関することを中心に担当しています。ふるさと納税では、涌谷町のお米やみそなどを返礼しており、現在の納税額は累計二億円にも達しています。また、涌谷町を広めるためにSNSで、涌谷町の魅力を伝えています。

金野さんが特に力を入れていた業務は、広報わくやSNSでの取材・撮影・編集をしたり、地域おこし協力隊などでの活動、涌谷町黄金大使にかかわる事業などです。さらに、金野さんは平成三十年の五月号に広報わくやの表紙に掲載した写真が日本広報協会主催の広報コンクールの一枚写真部で、特選(総務大臣表彰)を受賞した経験があります。それが金野さんのちょっとした自慢だそうです。ですが、苦い経験もしたことがあるようです。それは、令和三年の広報わくやの表紙に網で鴨を捕まえる網猟をしている様子を背景に「命を頂きます」と書き、発行した後に、コロナ禍ということもあり、町民を不安にさせてしまい苦情が殺到したという経験だそうです。

地域おこし協力隊の活動では、都市部に住む方に移住してもらい、課題解決をしてもらいながら、定住につながる活動をしてもらうことが主な活動だそうです。



涌谷町では、平成二十八年度から地域おこし協力隊の制度を導入したそうです。活動分野では、食や農業、観光、情報通信、お菓子づくり、フリーミッション(隊員提案型)など多種多様だそうです。次に、涌谷町が抱える課題です。課題の中には、少子高齢化や若者の都市部への人口流出、空き家の増加、町の空洞化、教育格差、担い手不足、公共交通網などがあり、その課題を解決し、持続可能な涌谷町の実現を目指すことだそうです。

涌谷町の抱える課題を解決するために、涌谷町の魅力を伝え、できる限り多くの町内外の人に「涌谷町に移住したい」「涌谷町で自己実現を果たしたい」と思ってもらえるように涌谷町の良さを広めているそうです。金野さんはこれを「お仕事＝推し事」だと言っていました。

ふるさとを知る

私達は金野さんにインタビューをして気づいたことや、思ったことは三つあります。一つ目は役場で働く人たちにも色々な役割があって、それでも、みんな同じ気持ちで仕事に取り組んでいることがわかりました。二つ目、地元に色々な課題があったことを知ることができました。これまでは涌谷町の課題なんて気にしていませんでした。改めて、涌谷町の課題がたくさんあったことを知り、自分自身も少しだけでも課題解決の役に立てるようになりたいです。

三つ目は、ふるさと納税額がたくさん集まっていたことです。ふるさと納税額がたくさん集まるということは、様々な人が涌谷町の食べ物を食べてくれているということでもあると考えました。このように、色々な人が涌谷町の魅力に気づいてもらえると嬉しいです。

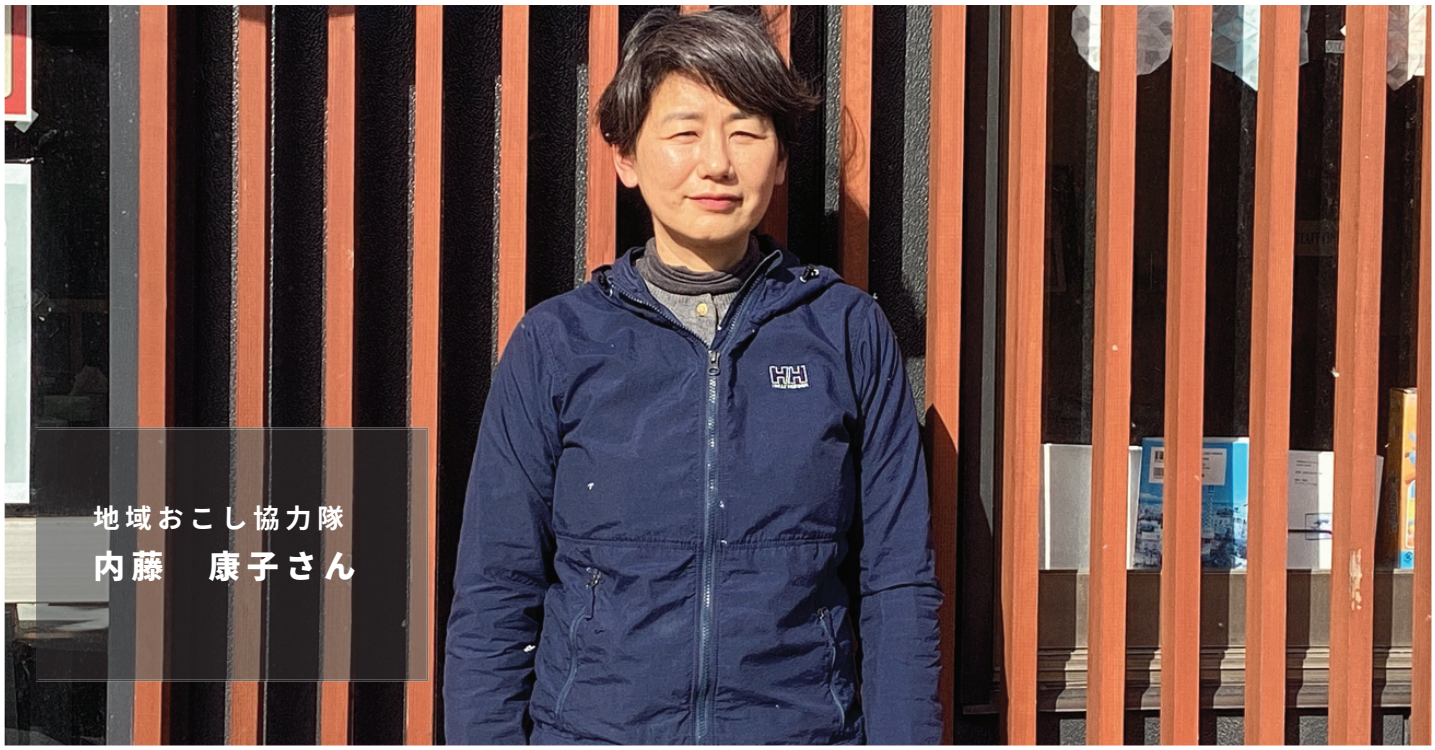


涌谷町役場

〒987-0114

遠田郡涌谷町新町裏153-2

Tel. 0229-43-2112



涌谷が大好き内藤さん

内藤康子さんは、涌谷町出身で現在は涌谷町地域おこし協力隊として、町の魅力やイベントの広報活動を主な役割として活躍されています。そんな地元愛に溢れた内藤さんについて紹介します。内藤さんの第一印象は明るく、話しやすい雰囲気で個性的な方という印象を受けました。これまで内藤さんは涌谷町を出られた後、仙台でＤＪのアルバイトをしたり東京で広告代理店で働いたり、沖縄に長期間住んだりと生活拠点を転々したそうです。現在はご家族のために涌谷町へ帰り地域おこし協力に入隊されました。

涌谷町の魅力を広めるために

では、なぜ現在の地域おこし協力隊に入隊されたのでしょうか。それは「涌谷町の魅力を幅広い世代に発信し伝えていきたい」と思ったからだそうです。インタビューの際、私たちは内藤さんの思う涌谷町の魅力や強みについていくつか質問しました。そこでは、涌谷町は実は海が見えることや首都圏などにアクセスしやすいことなど、涌谷町に住んでいても気づけないような魅力をたくさん話していただき（あぁこの人は本当に涌谷町が好きなんだな）と思いました。そんな内藤さんが行っていることは涌谷町が日本初の砂金の街なので金の手仕事を広めたいと思って金継ぎの教室に通われたり、ワークショップやまるしぇに参加して金継ぎの作品の展示をされています。

そのうち涌谷町で教室を開きたいともおっしゃっていました。



そして昨年の十一月に内藤さんは涌谷町の公式ＬＩＮＥを立ち上げました。

涌谷町の防災無線で流れていたものをＬＩＮＥで読めるようになりました。その他にも町のイベント情報を流したり、シニアの方に向けてＬＩＮＥ教室を開催されたりと町民の方に喜んでいただいているようです。

二月末にはＬＩＮＥの登録者数を増やすために映画の上映会も企画されており、その映画は「百姓の百の声」という農業を題材とした映画です。

農業は涌谷町の根幹なのであらためて農業の素晴らしさを見直していただき町民の皆さんに喜んでほしいと思っているようです。

また、涌谷町の商店街をよくしたいと思っているようで町おこしワークショップやセミナーに参加されて卒隊後に、金をテーマにしたお店を開きたいともおっしゃっていました。

涌谷町の未来は？

今回私たちがインタビューした内藤さんは終始にこやかで、話を聞きながら私たちは「いま涌谷町でできることを探そう」という気持ちになりました。最後に、内藤さんが話していた未来の涌谷町についてを紹介して終わりたいと思います。「涌谷町に商店街を」その内藤さんの想像する未来の涌谷町の活性化のために自分たちができることを探していきたいと思います。





涌谷町公民館

〒987-0147

遠田郡涌谷町下道69-1

Tel. 0229-43-3001



まちの保健室はここにある

涌谷町のまちかど保健室でボランティア活動をしている、鈴木由美さんについてご紹介します。由美さんは元々看護師の仕事をしていたそうです。しかし、病院の暗い雰囲気ではなく明るいエネルギーをもらいたいという気持ちから看護師をやめ、その後は学校の保健室の先生へと転職をしました。

定年退職後は保健室で働いていた経験を生かしたいと思い、誰でも気軽に利用できるそんな保健室を二〇一三年十月に涌谷町のまちかどに立ち上げました。



保健室なのに保健室じゃない！？

まちかど保健室について紹介します。由美さんの「誰でも気軽に立ち寄れる保健室を作りたい」「自分が思い描いた保健室をまちかどに作りたい」という思いから『まちかど保健室』が作られました。保健室と聞くと怪我をしたり体調が悪い人しか使えない場所だと思いがちですが、由美さんはどんな人でも気軽に行けて元気をもらえる、そんな居場所を作っています。インタビューで「その仕事のやりがいはなんですか」と質問したところ、「表情が暗い人が訪問してきて由美さんやスタッフの方とお話をしているうちに笑顔になってくれること」とおっしゃっていました。由美さんいわく「まちかど保健室は仕事ではなく、ボランティア感覚でやっている」とのことです。



自分のためではなく誰かのためにやっていてとても素敵だと思いました。

次に「まちかど保健室を通して涌谷町をどのような町にしていきたいか」と質問したところ、「元気いっぱいの町にしたい」とおっしゃっていました。涌谷町はかつて、商店街や人、遺跡や文化など全てにおいて栄えていたそうです。ですが今は遺跡や文化は残っているものの少子高齢化や都心への移住などにより人口は減り、農業や伝統文化の担い手が減少している状態です。そのため当時のように活気を取り戻していくことで、世代関係なく人の輪を繋げていってほしいとのことでした。

最後にまちかど保健室の魅力は誰でも気軽に行けて笑顔になること、美味しいベイクドチーズケーキや美味しいお菓子が食べられることです。

人の輪でつながるまちに

今回のフィールドワークを通してまちかど保健室は、病気の相談ではなく、人と人をつなぐ大切な役割を果たす場として機能していると思いました。由美さんは、目先の結果よりも地道な積み重ねを重視し、「継続は力なり」を信じて実践してきたとお話ししていました。

また、まちかど保健室に来る人や、地域とのつながりを育むことを大切にしていて、人の輪が安心や基盤を生むと教えていただきました。健康とは個人だけの問題ではなく、さまざまな関係性の中で守られていくものだと知ることができました。私たちも由美さんのように人の輪を大切にして社会に貢献できる人になりたいと改めて強く感じることができました。



まちかど保健室
〒987-0141
遠田郡涌谷町田町裏70-1

Tel. 090-2985-4051

涌高生の

涌谷町人物図鑑

涌谷町人物図鑑

2026年3月発行

編集
宮城県涌谷高等学校
1学年　総合的な探究の時間

取材協力
涌谷町の皆さま

発行
宮城県涌谷高等学校